

# マダコ小型個体脱出装置に関する研究 (鹿児島大学水産学部との共同研究)

立石章治

## 【目的】

鹿児島県内ではマダコ漁業が盛んに行われており、東町漁協や鹿児島湾ではタコツボ漁業やカゴ漁業、指宿漁協ではカゴ漁業が主体となって漁獲されている。漁協によっては独自に300g以下の小ダコの再放流、産卵用タコツボ投入など、マダコの資源管理に取り組んでいるが、タコ籠の漁法では商品サイズに満たない小ダコが漁獲されることがあり、将来の親タコの確保に支障をきたすと考えられる。このため、小ダコが脱出できる方法を検討し、マダコ資源管理の推進に資する。

## 【方法】

前年度の鹿児島大学による水槽実験結果から、300gサイズの個体が脱出できる最小直径は2.7cmである結果が得られており、この結果から直径3cmの脱出口をタコ籠に取り付け、指宿市岩本地先において脱出口を設置したタコカゴ試験操業を実施した。

### (1)実施時期

平成22年6月17日～7月16日のうち計10回操業した。

### (2)操業方法

脱出口付きカゴ10基と従来のカゴ10基を延縄式に交互になるよう10m間隔に連結し、餌料に冷凍ゴマサバまたは冷凍ムロアジを設置して投入した。

### (3)体重測定

取り揚げたマダコは体重を測定し、脱出口付きカゴと従来のカゴの漁獲状況を比較した。



写真1 実験用タコ籠（60cm x 45cm x 22cm）と試験操業

## 【結果及び考察】

操業の結果、10回中9回の操業にマダコの漁獲があり、脱出口を付けたカゴに計17個体、従来のカゴに計33個体の漁獲があった。脱出口付きのカゴの17個体の体重の範囲は295～1,290gで、平均体重は535.9g、300g以下はわずか1個体のみとなり、300g以下の個体の割合は5.9%と少なかった。一方、従来カゴで漁獲された33個体の体重の範囲は20～2,300gで、平均体重は397.7g、300g以下

の小型は 14 個体となり，300g 以下の個体の割合は 42.4 % を占めた。

これらの結果から，脱出口を付けることで小ダコの漁獲軽減や将来の親タコの確保が図られると考えられ，脱出口の設置は資源保護に有効と考えられた。

表 1 試験操業データ

	漁獲個数	最大重量(g)	最小重量(g)	平均体重(g)	300g以下の割合
脱出口あり	17	1,290	295	535.9	5.9%
従来カゴ	33	2,300	20	397.7	42.4%

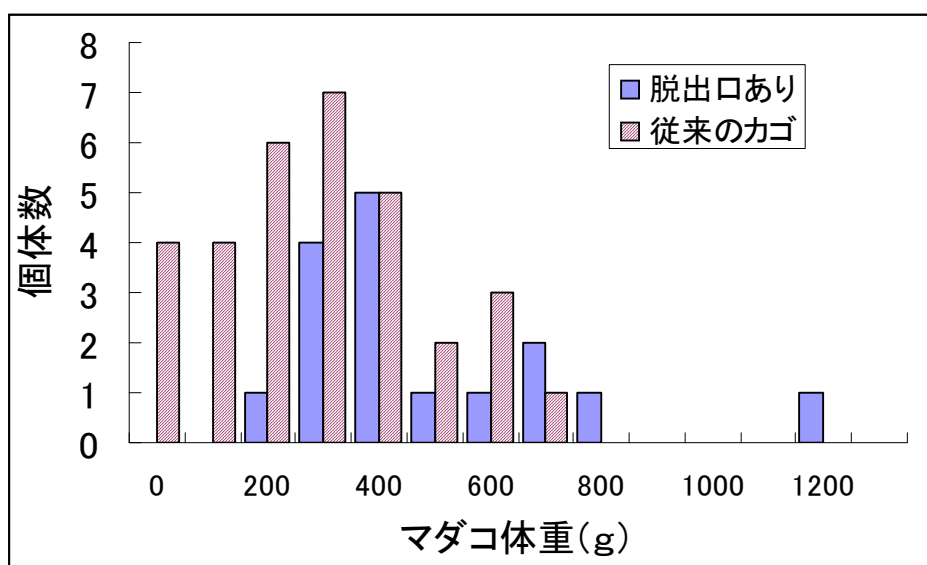


図 1 操業結果



写真 2 脱出するマダコ(左)と従来カゴで脱出できなかったマダコ(右)